☆放課後子ども教室☆

季節は冬の始まりを迎えました。朝、外に出ると水たまりには薄氷が張り、霜柱が立った上を歩くと、ザクザクと良い音がします。雪の便りもそろそろ本格的に届く頃でしょうか。寒さに体が慣れるまではなかなかつらいものですが、子どもたちも風邪を引かず、元気に過ごしてほしいものです。

放課後子ども教室 10 月後半の活動では、バルーンアート用の風船を使って遊んだり、視覚の不思議を体感するミニ実験教室などを行いました。バルーンアート用の風船は専用のポンプを使ってふくらまし、風船同士をつなげて花をつくったり、1 本の風船から動物や剣をつくったりして遊びました。小さな風船をたくさんつくり、ブルーシートの上に集め、それを空中に舞い上がらせる遊びは、とてもシンプルなものですが、子どもたちは大喜び。何度も集めては舞い上がらせ、色とりどりに降ってくる風船を拾いに飛び回っていました。ミニ実験教室では、A4 サイズの紙を 1 枚使い、目がモノを見る仕組みを利用した実験に挑戦しました。筒状にした紙を左右どちらかの目に当て、体育館の掛け時計など少し離れたところにあるものを見ます。対象物がのぞき込んだ筒の中におさまったら両目を開け、筒を当てていない方の手の平をゆっくり筒の横にもってくると、あら、不思議！まるで手の平に穴が開いたように見えるのです。最初はあまりよくわかっていなかった子どもたちも、コツをつかむと「わっ！穴が開いて見える！」と「なんだこれー？」と面白がっている様子でした。

10 月の高学年の活動では、2 週間にわたり、北海道教育大学岩見沢校 4 年生の畑嶋春美さんを講師に迎え、和太鼓に触れるプログラムを実施しました。厚真町郷芸保存会に所属し、町内外で和太鼓の演奏活動を行っている畑嶋さんから、卒業論文の作成にあたり、小学生への和太鼓の指導に関する素材・データを集めたいという相談があり、今回の活動につながりました。1 週目は、クイズを交えて和太鼓の特徴を学んだり、リズムに合わせて打ってみたりしながら和太鼓に親しみました。2 週目は、楽曲にチャレンジ！パートわけをして、口唱歌（くちしょうが）と呼ばれる手法で楽譜を読み込み、実際に演奏をしてみました。学校の授業でも触れたことのない和太鼓。参加した子どもたちの多くが和太鼓初体験で、ドーンっという大きな音に最初は驚いている様子でしたが、自分で打ってみることで音を出す楽しさを感じていたようでした。

11 月に入り、吹く風はだんだんと冷たくなっているものの、平日、放課後の時間帯は天気にも恵まれ、子どもたちと外で遊べる時間をもつことができています。キツネの小判と呼ばれる、オオウバユリのタネを集めたり、学校林の倒木で木登りや基地づくりをしたり。ボールひとつにみんなが集まってサッカーや野球が始まるなど、良い意味で子どもたちが勝手に遊べる状況を、子どもたち同士が作り出しています。自分だけが楽しむのではなく、それぞれの遊びに得意・不得意があることをお互いに理解して、集まったみんなで楽しめる環境を自然と作っている様子に成長を感じました。